

りそな外為レポート

りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

左舷弾幕薄いぞ！
いやそもそも弾があまりないようだ (P2)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 市場トレーディング室

今週のドル円予想レンジ **106.50 ~ 109.00**

りそなWEEKLY COLUMN

美を求めてフィボナッチ数列 (P3)

りそな銀行 総合資金部
中川 真一

- 古来より人々が美しいと感じる「フィボナッチ比率」
- マーケットにもこの「フィボナッチ比率」の「美」が隠されている
- 多くの市場参加者がこの「美」を応用したテクニカル分析に注目

りそな外為レポ

左舷弾幕薄いぞ！

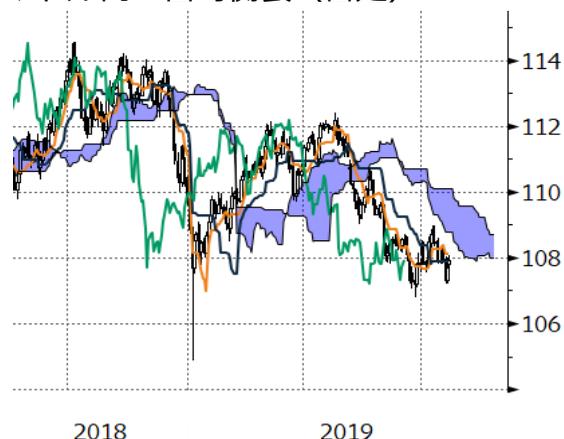
いやそもそも弾があまりないようだ

来週のドル円予想レンジ

106.50 ~ 109.00

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

◆ドル円一目均衡表 (日足)



◆為替相場のすすめ

昨日の参院選は国民の関心が薄く投票率は過去最低に次ぐ48.8%だったようだ。しかし、与党が過半数を維持し、主要国の中で政治が相対的に安定していることで、投資家の日本に対する信任は高まりそうである。一方で、参院選後はトランプ大統領を「おもてなし」により結論を伸ばし続けてきた日米貿易協議が本格化し、得意の高めの弾が飛んでくる可能性がある。また、企業決算にも米中貿易戦争の影響がじわりとでてきている。ドル円は日銀短観の想定為替レートを下回っており、株価には悪材料だ。

来週、FRBは0.25%の利下げを実施する見込み。また、今週はドラギECB総裁が9月利下げに向けて号砲を鳴らす予定。翻って日本はどうであろうか？「左舷弾幕薄いぞ！」…いやそもそも日本に弾があまりないようだ。合衆国の新型「GAFA」の前に日本のものづくりは霞むのか？黒田日銀総裁に策はあるのであろうか？ドル円は上値の重い展開が継続しそうである。

(市場企画部)

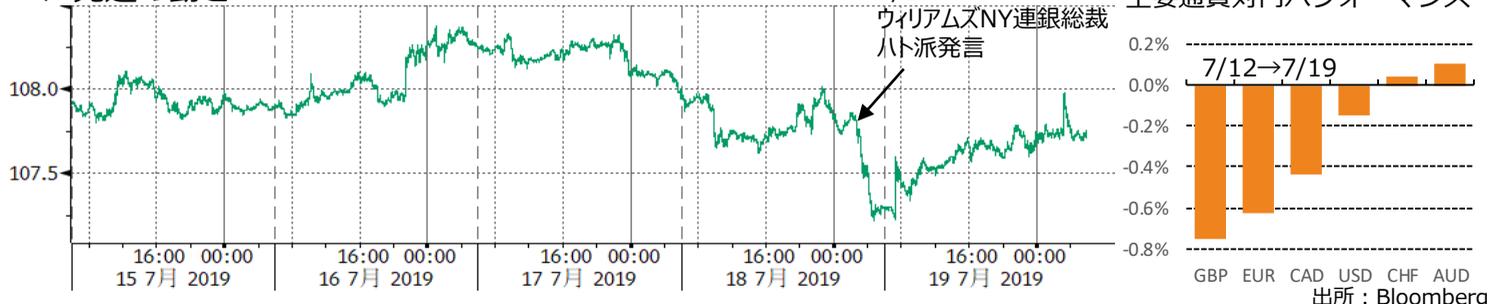
◆今週の日程

23日 (火) 米 2年国債入札	25日 (木) 独 7月IFO景況感指数
23日 (火) 英 保守党新党首発表 (予定)	25日 (木) 欧 ECB理事会
24日 (水) 日米貿易協議(事務レベル)~26日	25日 (木) 米 6月耐久財受注
24日 (水) 欧 7月PMI	25日 (木) 米 7年国債入札
24日 (水) 米 5年国債入札	26日 (金) 米 19/2Q GDP速報

◆今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓) NY引け値 19日(金) 107.71円 VS 26日(金)

東京							大阪					埼玉				
尾	中	湊	井	鳥	田	関	藏	佐	松	鈴	武	野	小	津	石	伊
股	根		口	井	中	口	重	藤	村	木	富	瀬	林	田	井	藤
↑	↓	↓	休	↓	↓	休	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↑	↑	↓

◆先週の動き



◎注意事項

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

りそな WEEKLY COLUMN

美を求めてフィボナッチ数列

- 古来より人々が美しいと感じる「フィボナッチ比率」
- マーケットにもこの「フィボナッチ比率」の「美」が隠されている
- 多くの市場参加者がこの「美」を応用したテクニカル分析に注目

りそな銀行 総合資金部 中川 真一

フィボナッチ数列ってなに？

今日は数学の話から始めようと思います。

「フィボナッチ数列」なるものをご存知でしょうか？12～13世紀に実在したイタリア数学者が発見した数列で、

1、1、2、3、5、8、13、21、34、55、89、144、233、377、610、987、1597、2584、4181、6765、10946、17711、28657… と無限に続き、

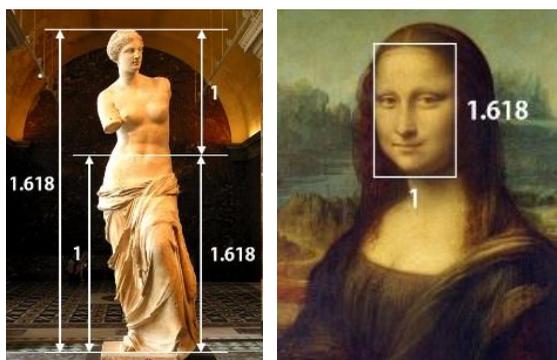
①どの項も、その前の2つの項の和になる (例：5+8=13、8+13=21)

②隣り合う2つの数字の比が、概ね 1 : 1.618 となる

(例：377/233=1.618025751≒1.618)

という特徴を有しています。自然界にある植物の花弁の枚数（どんな花であっても花弁は3,5,8,13,21枚）や植物の造形に現れるらせんの数（ひまわりの種の並び方はらせん状に21,34,55,89…）などを数えていくと、この数字と一致するようです。また、ご存知の方も多いと思いますが、この「1 : 1.618」の比率は別名「黄金比」とも呼ばれており、パルテノン神殿など歴史的建造物のスケール、モナ・リザなど著名な美術品の構図、身近なところでは名刺やタバコの箱のサイズにもこれが用いられています。「古来より人々が直感的に美しいと感じる比率」というわけです。なんと壮大な口マン。

美術品に垣間見える黄金比のパターン(一例)



出所：Wikipedia他

りそな WEEKLY COLUMN

マーケットには「美」が隠されている？

むかしむかし、この理論を経済活動に応用しようと思った人がいたようです。「我々の経済活動(株価)もこの法則に則って動いているはずだ!!」とでも考えたのでしょうか。いずれにせよ、新たなテクニカル分析が生まれました。それが「フィボナッチリトレースメント」です。

使い方は至ってシンプルです。チャートの高安を基準として、76.4%、61.8%、50%、38.2%、そして23.6%の水準で水平線を引けば完成です(この微妙なパーセンテージに、前述のフィボナッチ数列の比率が隠れています)。そして、このラインが目先の値動きを占う上での指針になる、というわけです。では、「マーケットにも「美」が隠されているのか?」、なんとも言えないロマンを探してみましょう。

下記チャートは2017年末時点でのWTI原油先物価格です。ちょうど38.2%線の上あたりに位置しており、2017年半ばから上昇基調ですね。ここで、2018年の原油推移を考えるにあたり、この水平線が有用となってきます。強気な方であれば、例えば76.4%水準の88.45ドル/brl、61.8%水準の76.53ドル/brl、50.0%水準の66.89ドル/brlといった水準がターゲットとして目安になります。はたまたトレンド転換予想派であれば、23.6%水準の45.33ドル/brlがあり、下値目途となるわけです。

それでは、実際の2018年以降のチャートがどのような形になったのか。次のページで答えを見てみましょう。

2017年末までの原油先物チャート



出所 : Bloomberg

りそな WEEKLY COLUMN

美しいもの、探してみませんか

2018年は10月の頭まで上昇トレンドが続きましたが、61.8%水準の76.53ドル/brlがドンピシャ!!で、そこから奈落へ急降下し年末には23.6%水準の45ドルを割り込む結果となりました。今年に入り再度上昇トレンドが復活したものの、やはり50%水準の66.89ドル/brlがドンピシャ!!でトレンドが転換。現在は50ドル/brl台での推移となっています。

いかがでしたでしょうか。

もちろん、これはうまく当てはまった一例に過ぎませんが、多くの市場参加者がフィボナッチ比率を意識した売り買いを行っている事は証明できました。ちなみにわたし、相場の世界に飛び込んでからずっとこの手法を好んで使っております…だってロマンに溢れてるじゃないですか。

このコラムを読んで、フィボナッチはもちろんマーケットに対しても興味を持って頂けたら幸いです。

直近までの原油先物チャート



出所：Bloomberg、Wikipedia他